

心得の中には「私のめあて」の欄を設け、そのめあてに向かって努めることにした。

この心得ができ上がった当初は、やや抽象的な表現であったため、一部に心得を軽視する傾向がみられた。

そのため、部内から反省を求める声があがり部会で話し合った。そして、自分たちで作った心得なのだから、みんなでもっと大切に守ろうということになった。

これを機会に、活動に対する部員の心がまえや練習態度が変わってきた。

例えば、2年生は1年生に対し、単に注意を与えるだけでなく、親切に技術を教えてやったり、励ましの声をかけてやったりするようになった。

さらに、自己中心的な行動も少なくなり、自らの行動を厳しく見つめるようになった。

また、1年生は2年生を信頼し、自ら進んで活動する態度がみられるようになった。

以上のように、練習の心得を自主的に決め、それを全員で守って活動することにより、集団としてのまとまりが強くなったといえる。

(4) 「活動日誌」の活用

以前の活動日誌は、単に活動を記録するだけであったが、例に示したように、新たに活動の反省や個人の記録の欄を設け、当番が毎日交替で記録することにした。

そして、記録にみられる活動の様子や反省の中から、全員の問題となるようなことについて話し合い、共通理解を図っていくことにした。

このように、記録したり、話し合ったりすることによって、記録の大切さを理解し、責任をもって記録するようになった。

その結果、建設的な意見も記されるようになり、さらに練習の反省資料とし、また、お互いの技能や個人の問題点を見つけて解決しようとするなど、効果的な活用が図られている。

その記録の一例として、活動日誌の一部を次に掲げてみる。

活動日誌の記録(例)

～今日の反省と自分の記録を残して、 よい伝統をつくろう!!～	
9月9日(月) 記録者 1年6組 氏名 M・Y	顧問
練習欠席者 K・Oさん, H・Sさん	
けがをした人 なし	早退者 T・Eさん
部の反省	私の一日
前半は、外で1, 2年生ペアのパス練習をしたが、みんな上手にできて良かった。後半は、2年生中心のサーブ、レシーブ、スパイク練習だったが、1年生の中にはよく見ていない人もいたので、注意したい。	オーバーパスをだんだん続けられるようになって良かった。でも、かけ声が小さかったので、次からはちゃんと大きな声を出したいと思った。それから、新人戦までがんばって2年生を応援しようと思っています。
先生から	
反省にあるように、練習を見ることは非常に大切なことですから、みんなをよく話し合ってみたらどうですか。あなたのように熱心に応援し、協力することはすばらしいことです。今後もみんなのためにがんばってください。	

以上のように、部員の記録に対し、教師が簡単な励ましや助言を書き添えることによって、部員との意思の疎通を図ることに役立ったと考える。

日誌の記録を通して、部員同士や生徒と教師の相互理解が図られ、連帯感を高めることにつながった。

(5) 「グループ活動」の導入

女子バレーボール部は、部員数が多く、練習